

第3章 重点戦略

1. 重点戦略の位置付け

重点戦略は、新たな環境に関する課題や市を取り巻く様々な状況に対応し、望ましい環境像の実現を強力に進めていくために、特に力を入れる必要のある施策を「重点戦略」として位置付けます。戦略設定に当たっての基本方針は次のとおりです。

- 重点戦略とは、優先的に取り組むべき施策・事業を組み合わせることで計画のエンジンとして一体的に推進するもの。
- 環境面において、大幅な市域の温室効果ガス排出量削減や新たな資源循環の流れをつくる等の大きな環境保全効果が期待できるもの。
- 社会面や経済面等の本市が現在抱えている地域課題に対して、環境側面からアプローチすることで環境面だけではない相乗的・統合的に大きな改善効果も期待できるもの。

2. 重点戦略

重点戦略 1

かみす持続可能なエコ・シティ事業

重点戦略 2

かみすグリーンネットワーク構築検討

重点戦略 3

市民参加型省エネ普及啓発事業の検討

重点戦略1 かみす持続可能なエコ・シティ事業

戦略のねらい

- ゼロカーボン社会の実現のためには、市民一人一人のライフスタイルや産業構造、都市構造の転換が必要です。特にそれらに共通する“エネルギーの使い方”について、市の特性や技術動向等を踏まえて転換を図っていく必要があります。
- 本市では、鹿島港における水素等の次世代エネルギーの供給拠点形成に向けた動きがあるほか、グリーン・イノベーションの推進も期待される特徴があります。その特徴を活かし、新たな産業の創出や市域をフィールドにした研究開発の拠点として、その成果が市内の市民・事業者にも波及していく先進都市を目指します。
- また、本市は太陽光発電や風力発電等の再生可能エネルギー資源に恵まれた地域ですが、それらの多くは大都市圏に供給されているのが実情です。そのため、より市内の市民・事業者が資源や利益が還元される都市を目指します。

戦略の概要

- 水素等の次世代エネルギーの供給拠点として将来的に期待される鹿島港の動向を踏まえながら、次世代エネルギーへの転換に段階的に対応していきます。
- 再生可能エネルギー等のクリーンなエネルギー源の導入については、次世代型太陽電池等の新技術の活用やエネルギーの地産地消に向けた PPA 事業や地域新電力の活用等を検討します。
- 導入したエネルギー関連設備は防災面でも活用していきます。

対象とする施策

	施策	主な取組例
基本目標 1	1-1(1)② 省エネルギー設備の普及促進	ZEH・ZEB の補助金等の情報提供、住宅のエコ・省エネ機器の設置に対する補助金の交付 等
	1-1(2)① 再生可能エネルギーの普及促進	卒 FIT の活用方法の検討 等
	1-1(3)① 家庭・事業所への水素エネルギーの浸透	水素ステーションの導入に向けた運営・事業性等の検証 等
	1-1(3)② 安定的な水素・アンモニア供給体制の検討	鹿島臨海工業地帯からの安定的な水素製造・供給に向けた実証実験等の検討 等
	1-1(3)③ 水素・アンモニアに関する新たなビジネス創出及び研究開発等の支援	水素関連事業の誘致・支援に向けた各種支援制度の検討 等
基本目標 5	1-1(4)① 人と環境にやさしい総合的な交通ネットワークの構築	e.CYCLE 事業で得られた地域活性化資金による公用車(EV)のリース事業 等
	5-2(1)② グリーン・イノベーションの推進	国や県と連携したグリーン・イノベーションの推進 等

重点戦略2 かみすグリーンネットワーク構築検討

戦略のねらい

- 海岸・河川等の水辺環境や田園・緑地環境等の恵まれた自然環境を健全に維持し、水と緑に囲まれた豊かな暮らしを次の世代に引き継いでいく必要があります。豊富な自然資源や希少な動植物を保全・活用しながら、水と緑、観光・レクリエーション資源のネットワーク化を図ることで、暮らしの快適性を高めるとともに、自然との共生や地域振興等を目指します。

戦略の概要

- 施設等の緑化(点・面)と道路等の緑化(線)を総合的に展開し、市域にみどりのネットワークの構築を推進します。
- コウノトリやコアジサシ等といった希少な動物が生息するエリアでは繁殖地の保護等を図ります。
- まちのにぎわいづくり事業による自然環境調査成果はみどりのネットワーク構築に関連する指標として活用するほか、市内に生息する動植物の特徴を市民にわかりやすく伝えていきます。
- 二酸化炭素の吸収源としてだけでなく、生物多様性への配慮や市民の住みやすさ、都市景観の向上等への波及も期待できます。

対象とする施策

	施策	主な取組
基本目標 3	3-1(1)① 豊かな自然地域の現状調査の実施	自然環境調査結果の公表・周知 等
	3-2(1)② 公共施設等の緑化	公共施設等の緑化を推進 等
	3-3(2)① 公園・緑地の整備	実のなる木や花の咲く木を植え、生物の生息環境に配慮 等
	3-3(3)② 道路景観の整備	道路の緑化(街路樹)の維持管理を実施 等
	3-3(3)④ 家庭・事業所の緑化の推進	家の庭やベランダ等の緑化を啓発 等
	3-3(3)⑤ 花いっぱい活動の充実	花いっぱい運動を通じたまちづくり活動の促進 等



重点戦略3 市民参加型省エネ普及啓発事業の検討

戦略のねらい

- 豊かな自然や暮らしを次の世代に引き継ぐためには、市民一人一人が省エネをさらに推進し、温室効果ガスの排出量を減らしていくことが必要不可欠です。より多くの市民が率先して省エネ対策に取り組むための基盤づくりを進めることで、家庭部門における低炭素化への貢献だけでなく、新たなライフスタイルの確立やコミュニティの活性化等を目指します。

戦略の概要

- 市民におけるこれまで以上の環境保全の取組促進を図るため、取組へのインセンティブを付与するような事業の方法等について検討します。
- 市民に環境家計簿の活用を促し、家庭でのエネルギー使用状況の見える化や光熱費削減のために必要な取組が分かるような支援を行います。
- e.CYCLE 事業への参画を促し、地産地消の推進のほか、電気料金の一部を地域の活性化や課題解決につなげていく取組を展開していきます。
- 市民のライフスタイルの変革や地域産業振興等への波及も期待できます。

対象とする施策

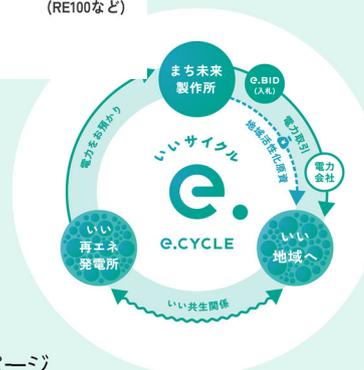
	施策	主な取組
基本目標1	1-1(4)① 人と環境にやさしい総合的な交通ネットワークの構築	e.CYCLE 事業で得られた地域活性化資金による公用車(EV)のリース事業 等
基本目標5	5-1(2)③ 市民参加型の環境事業の検討	団体等との連携による組織化に向けた骨子等の協議と市民参加型の環境事業の検討 等
	5-1(3)① 環境教育の推進	小中学校への環境教育の積極的な推進 等
	5-2(1)② グリーン・イノベーションの推進	国や県と連携したグリーン・イノベーションの推進 等

コラム e.CYCLE 事業



e.CYCLE(いいサイクル)事業とは、市内で発電された太陽光や風力などの再エネ電気を地産地消や都市間流通をすることにより神栖市産の電気として購入していただく事業のことです。電気代の一部は、e.CYCLE 事業者と市で協議して地域の活性化資金として地元へ還元することで、地域の活性化や課題解決につなげていきます。

出典:e.CYCLE ホームページ



コラム コウノトリの生態

コウノトリはかつて日本に広く分布して生息していた大型の鳥で、国の特別天然記念物に指定されている貴重な鳥です。乱獲のほか、営巣木の伐採や農薬使用などによる生息環境の悪化により個体数が減少し、国内では野生絶滅してしまいました。その後、人工繁殖が取り組まれ、放鳥と自然下繁殖によって野外での生息数が順調に増加し、近年では神栖市内でもコウノトリの自然繁殖が確認されています。

コウノトリは、水田や河川・湖沼などの水辺でドジョウやカエルなどを捕食します。

また、営巣には高木や鉄塔などの上を利用します。そのため、コウノトリと共生していくためには、餌場の環境を守るほか、電柱や鉄塔ではない安全に営巣できる場所を増やしていく必要があります。

